

1 事業名 ボランティアスキルアップセミナー

2 必要性

青少年育成施策大綱の基本理念として、青少年の社会的な自立と健やかな成長を支援することが示されている。また、ボランティアについては、青少年教育施設でボランティア活動に関する研修会を実施し、青少年が地域社会へ参画できるように支援する必要性が記述されている。社会にとって有用な人材を育成することは青少年教育施設の使命であり、活動に参加する青年の裾野を広げ、活動の中でリーダーとなって活躍をする青年を育成する事業は、社会からの要請があるところである。本事業は国立三瓶青少年交流の家が持つ機能を活用して、青年たちにボランティア活動に関する学習の機会を提供するものであり、社会の主役として主体的に社会に参画しようとする態度を育成しようとするものである。

3 趣旨

ボランティア活動をする上で必要なスキルの向上を図り、併せてボランティア活動に対する情熱と社会貢献への意欲を高めることによって、ボランティアリーダーの養成に資する。

4 後援

島根県教育委員会

5 期日

平成21年 6月5日(金)～7日(日) 2泊3日



オープニングアイスブレイク：カプラ

6 参加者

(1)募集対象・人数：ボランティア活動の経験がある青年・20名

(2)参加人数：19名

(3)参加者分析：例年スキルアップセミナーへは、ボランティア経験が、ある程度豊富な県内大学2・3回生の参加が多かった。しかし今回は集中講義や教育実習と重なった関係で、ボランティア経験の少ない県内大学1回生と、ボランティア経験豊富な県内大学4回生や大学院生が多く参加した。また、元法人登録ボランティアである小学校教諭も、社会人として1名参加した。

(4)参加者地域：島根県19名

7 講師等

穴澤 剛行 氏(ふるさと自然塾代表)

8 参加費 3,000円(食費5食・シーツ代・教材費・茶菓子代)

9 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、ボランティア活動の経験を積んだ青少年を対象として、リーダーとして必要な資質等について学習する機会を提供するものである。プログラムの特色として体験学習法を軸にした参加型のものを準備し、今後の活動意欲が高まるよう工夫している。一方で講義形式のプログラムも織り交ぜることで、リーダー論に対するより深い学びの場を提供するものである。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

ボランティア活動をする上で必要なスキルや、ボランティア活動に対する情熱と社会貢献への意欲を体験的に身につけてほしいと考え、自然体験活動の企画・運営、ワークショップ等を幅広く行っている穴澤 剛行氏を講師に迎えた。本セミナーは、「ボランティアリーダー育成事業」として、リーダーシップの育成にこだわってプログラムを組み立ててきた経緯があるが、今回は「リーダー」＝「ファシリテーター」の側面もあることに注目し、「リーダーシップ」を育むと同時に「ファシリテーション」の能力も育めるプログラム構成にすることを心がけた。

(3) 広報のポイント

県内の大学、高等専門学校、福祉専門学校、各市町村のボランティアセンター等へポスター・要項を配布し参加を募った他、島根大学教育学部での講義の初めや終わりの時間に、参加対象の学生に直接広報する機会を設定することができた。また、過去の事業に参加経験のあるボランティアへ手紙を送ったり電話をかけたりにして参加を募った。一番成果が上がったのは、直前に実施した企画事業「ボランティア入門セミナー」の参加者及び学生スタッフに声かけを依頼し、「友達を誘ってもらう形」で行った広報であった。入門セミナーで、当施設のもつ施設の特性や上質の講師陣、行き届いた職員の支援体制に魅力を感じている参加者が、広報における重要なポイントになった。

(4) 日程

6/5 (金)	18:00						20:00	20:30	21:00	22:00
	交流の家バス 島根大学正門前発			受付	オープニング	ねらいの共有	入就 浴寝			
6/6 (土)	6:30	9:00	12:00	13:00	17:00	19:00	21:00			
	起つ朝 ど 床い食	実習 「森の中で自分を見 つめよう」	昼 食	実習 「仲間の中で自分 を感じよう」	つ夕 ど い食	実習 「自分の航海図を 描こう」	入就 浴寝			
6/7 (日)	6:30	9:00	12:00	13:00	14:30					
	起つ朝 ど 床い食	実習 「やりたいこと ミーティング」	昼 食	ふりかえり クロージング	解 散					

(5)運営のポイント

大学の講義の関係で入所時間が遅れることから、アイスブレイクの時間をとらず、「ねらいの共有」を行った。終了後、講師を交えたスタッフミーティングで、参加者同士の関わりが十分深まっておらず、1回生を中心に緊張している実態があったため対応を協議した。その結果、翌日プログラムの午前・午後の順序を入れ替え、集団の仲間作りを行ってから個人の活動へ移ることとした。イニシアティブゲーム(課題解決型ゲーム)を主体に仲間作りを行った結果、参加者の心の距離感が一気に縮まり、その後の活動をより効果的に行うことができた。「参加者の実態を見て、より効果的なプログラム構成に変更する柔軟性」を持って運営にあたった。また午前、午後、夜の各活動の最初には、参加者のモチベーションを高めるイニシアティブゲームを取り入れ、場や仲間への安心感をもって研修に参加できるように配慮した。

(6)安全管理のポイント

「仲間の中で自分を感じる」ことをねらいに行ったイニシアティブゲーム(トラスト系)は、講師の意向で屋外で行った。目隠しをして行うもの、比較的高い場所で行い危険を伴うものなどは、複数の職員が安全管理の支援を行った。また、事前に講師から安全管理のポイントを指導していただいた。それ以外にも、参加者の「心の安全面」を支援する為に研修の合間や個人での振り返りの時間など、会場に心地よいBGMを流した他、会場内にくつろぎコーナーを設置し、和やかな雰囲気の中で研修が進められるように配慮した。

(7)アンケートの主な記述

- ・ 今回参加して、仲間の大事さに気づくことができた。また、自分自身のことも思わぬ発見があった。また参加したい。
- ・ 講師の方が、私達を受け入れてくれる雰囲気に安心して活動できました。
- ・ 短い時間で感じた自分の中のモヤモヤを、ゆっくり整理してみたい。久しぶりに自分自身についてこんなに考えることができた。とにかく楽しかった。いい気分です。
- ・ やはり、人と人との出会いや、そこで生まれた絆を大切にしたいと思います。私の価値観を変えてくれた三瓶であり、成長させてくれた三瓶に感謝しています。これからもずっと繋がってみたいと、久しぶりに来て感じました。

10 成果と今後の課題

<成果>

今回のセミナーを通し、参加者は自分自身と向き合う活動、仲間の中で自分を感じる活動、やりたいことを伝え合い共有する活動等を通して、自己表現力、合意形成能力、他者理解の力等、リーダーシップを発揮する上で必要なスキルについて体験的に学び合うことができた。また、穴澤講師の指導(ファシリテート)により、「参加者らが新たな自分に気づき、仲間の大事さに気づき、充実した時間を過ごしたことで内面から元気になり、今後もボランティア活動へ積極的に関わりたいという意欲を持ったこと」が最大の成果である。その他にも、鳥根県立大学短期大学部松江キャンパスからの参加や、社会人の参加があった点は、平成20年度までの課題であった幅広い参加者の確保という点で今後につながる成果であった。

< 課題 >

本事業の実施時期が県内大学の集中講義や教育実習と期間が重なった関係で、主な参加対象に想定していた大学2・3回生の参加が極端に少なかった。また、例年の課題でもあるが、参加者は国立三瓶青少年交流の家登録ボランティアである島根大学教育学部生が中心で、県内の他大学、専門学校、社会人等の参加が大変少ない実態がある。様々な立場の参加者がいることで、ボランティア活動に対する新たな気づきや発見が生まれ、今までの活動を客観的に振り返ったり、活動への新たな情熱・意欲が醸成されたりすることを考え合わせると、今後も幅広い参加者を得るための効果的な広報を展開していく必要がある。

1.1 普及計画・普及実績

事業実施後、事業内容および成果について本所HPで紹介する。また、企画事業報告書を青少年教育施設、青少年教育関係機関等に配布することで、成果の報告に併せ、その普及に努める。

1.2 その他

過去3回は、「リーダーシップの育成」という観点に主眼をおいたプログラム構成であった。4回目となる今回は、リーダーシップの育成と併せて、「ファシリテーター」「ファシリテーション」をキーワードに、参加者の自発性を様々な場面で引き出す事業運営やプログラム構成になるように心がけた。また、参加者の多くが複数回の企画事業参加者であったことや、企画事業における「ねらいの共有」や「ふりかえり」がマンネリ化していたことへの反省を踏まえ、講師と相談の上、マッピングによる「ねらいの共有化」や、カードや粘土を使った「ふりかえり」の手法など、今後活かせる新しい形の「ねらいの共有」や「ふりかえり」に取り組むことができ、参加者の感想も上々であった。

(担当 八幡 明)



講師の穴澤 剛行氏



信頼関係を築くゲーム(UFO)



ロープを使ってストレッチ



課題解決ゲーム：全員が浮く



仲間を信じて飛べ！(ダイブ)



カードを用いた新しいふりかえり